

死角から横断の高齢女性、はねられ死亡

路肩に止まっていた路線バスを、追いついた直後、前方から横断
日没後で見通しが悪くなっていた

2016/01/18

13日午後6時20分ごろ、香川県で、徒歩で道路を横断していた85歳の女性に対し、交差進行してきた軽トラックが衝突する事故が起きた。この事故で女性は死亡。クルマを運転していた37歳の男性を自動車運転死傷行為処罰法違反（過失致死）容疑で事情を聞いている。事故が起きた時間は日没後で見通しが悪くなっていた。男性が運転するクルマは路肩に止まっていた路線バスを追いついた直後、その前方を横断していた女性に衝突したものとみられており、警察では安全確認に怠りがあったものとみている。

積雪 スリップで単独事故の車に大型トラック2台が追突

追突された車の42歳男性が、意識不明の重体

◆前方で何が起ころかわかりません…、「車間距離」を十分に！◆

(2016/01/18 13:24)

18日午前1時40分ごろ、福島県の東北道で、スリップによる単独事故で停車したとみられる乗用車に大型トラック2台が追突した。この事故で、乗用車を運転していた会社員の男性(42)が病院に運ばれたが、意識不明の重体となっている。現場は左カーブに差し掛かるところで、事故当時は路面には雪が積もり、最高速度が50キロに規制されていた。

ドライバーは、「こまめに休憩！」「重大事故」が発生してからでは、「遅い」

2時間ごとに、15分休憩！

車間距離を十分に！ 滑って、追突を未然に防止

車が動いているときは、いかなる場合も
常に、100%運転に集中すること

自分は、事故を起こすはずがない？ 事故に遭うはずがない？

「慣れ」、「過信」に注意！ <“だいじょうぶだろう”は厳禁>

運転手は、「油断禁物」

◆スピードの出し過ぎ

◆前方不注意

バス事故運行会社 国土交通省の特別監査

◆判明した法令違反の疑い事例◆

2016/01/18

- ・国の基準よりも低い料金でバス運行を受注した契約が今回の事故以外に3件あった
- ・複数の運転手の勤務記録から過労運転を確認
- ・運転手の免許の種類や健康状態を個別に記した乗務員台帳に未作成や記載不備があった
- ・事業用車両に義務付けられた年4回の定期点検整備が適切に行われていない可能性がある
- ・旅行会社との契約時に、バスの行程や受注額を記す書類に、記載不備のほか未作成の可能性がある
- ・運転手が運行管理者に常時連絡をとれる体制を作らず

中小バス会社を一斉監査へ 国交省、月内にも

2016/01/19 02:31

国土交通省は18日、長野県軽井沢町のバス転落事故を受け、中小の貸し切りバス事業者を対象に、安全運行の管理体制について、月内にも一斉監査に着手する方針を固めた。今回の事故を起こした会社のようなずさんな実態が他社に広がっていないかを調べ、道路運送法違反があれば行政処分する。観光庁も旅行業法に基づき「格安バスツアー」などを企画する旅行会社に対し、近く集中的な立ち入り検査を実施する。

10人を超える犠牲のバス事故は

1985年長野の25人死亡以来、31年ぶり

2016年1月16日9時12分

詳しいデータが残る1990年以降の交通事故としては最悪の惨事となった。警察庁や捜査関係者などによると、10人以上が犠牲になったバス事故は31年ぶり。1985年（昭和60年）1月に大学生らを乗せたスキーバスが長野市のダム湖に転落し、学生22人を含む25人が亡くなって以来になる。

最近では、12年4月に群馬県の関越自動車道で、金沢市から東京ディズニーランドに向かっていた高速ツアーバスが防音壁に激突し、7人が死亡、38人が重軽傷を負った。

10人以上が死亡した交通事故は、詳しい統計の残る90年以降では2回目。前回は96年9月に兵庫県で起きたワンボックスカーと大型トラックが絡んだ衝突事故で、11人が死亡した。

他に10人以上の死者を出した事故は、▽75年1月に長野県でスキーバスが湖に転落して24人が死亡▽72年9月に長野県でバスが川に落ち15人が犠牲—などがある。